

平成28年度 第2回

帯広市廃棄物減量等推進審議会 議事録 (概要)

日時 平成29年2月8日(水)
午後4時～

会場 帯広市役所10階第3会議室

出席委員(17名)

畔津 委員
五十嵐 委員
石塚 委員
一ノ渡 委員
岡田 委員
梶 委員
木川 委員
工藤 委員
桑波田 委員
齋藤 委員
佐藤 委員
中川 委員
仲村 委員
堀川 委員
山崎 委員
柚原 委員
渡邊 委員

(19名中17名出席)

帯広市(7名)

川端 市民環境部長
梅村 清掃担当調整監
一森 指導担当課長
岸浪 清掃事業課長補佐
高坂 清掃事業課長補佐
西本 ごみ減量係主査
田之畑 ごみ減量係主任補

- ・川端市民環境部長挨拶
- ・渡邊会長挨拶

のあと議事に入る。

議事（渡邊会長により進行）

1. 平成29年度一般廃棄物処理実施計画について
（事務局：高坂課長補佐）説明（資料1）

会長） ありがとうございます。今、全体として着実に進みながら新年度も色々な新しい施策が組み込まれた計画だったと思いますけれども、今ご説明をいただきました内容について、皆さんの方から何か質問ですとか意見とかありましたらご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。ございませんか。

委員） 昨年、確か一般家庭のキッチンのところで処理出来るごみ処理機、ディスポーザーの話があったと思うんですが、それについては何も変わりなく、来年以降は何もやらないというか、結果は無かったことになったということなんですか。

会長） ディスポーザーの件はどうなったんでしょうか。

事務局） はい。昨年7月に基礎調査のご説明をさせていただきました。審議会のご意見を参考にさせていただきながら、検討しています。目途の最終報告は、主体は下水道から報告させていただきますが、まだ確定出来ませんので、次回の審議会の時には方向性等含めてご説明をさせていただきたいと考えております。

会長） 大きな流れとしてはこの前我々伺った話のとおり推進の方向でということですね。このことに関連してでも結構ですけど何か他にございますか。

委員） スプレー缶とカセットボンベの方の回収の方法が変わる予定だということでしたけれども、いつぐらいからの予定で計画されているんでしょうか。

事務局） スプレー缶・カセットボンベの回収につきましては、今のところ、

まだ議会等に出ておりませんのであくまでも予定ということで答えさせていただきますが、7月1日を予定しております。新聞報道の方で既に出ておりますが、あの内容どおり7月1日から進めさせていただくということで、4月に入りましたら周知の方ですね、広報ですとか色々な方法を使って市民の皆さんに支障が無いように始めさせていただきたいと考えております。

委員) 7月、説明があるまでは従来どおりのやり方をしていた方が良いですね。

会長) 捨てる我々の方で穴を開けなくて良くなった時に、収集する側というか、処理場の方で穴を開けるんですか。

事務局) 今回市民に穴を開けさせないで回収をする訳なんですけれども、十勝リサイクルプラザには、今まで穴を開けていただいてから分別をしていたんですけれども、そこに穴あけ機械を導入いたしまして、ごみに関わる1市6町2村で処理機を用意いたしまして、処理をするということになります。

会長) そうすると今回のこの変更っていうのはあくまで市民の安全確保っていうのが目的ということになるんですね。

事務局) 札幌市で死亡事故があったりですとか、国の方では以前から市民には穴を開けさせないで回収した方がいいという通知もございます。それとまたですね、最近高齢化ですとかお一人暮らしの方が多くなりまして、穴を開けられないという相談も沢山ありますことから、他の自治体もどんどん穴を開けない方法に切り替えておりますので、帯広市も次年度から穴を開けないで回収したいと考えているということでございます。

会長) ありがとうございます。その他いかがですか、どうぞ。

委員) 新聞によって早とちりして、もう開けなくていいんだと思い、穴を開けずに出している人が居るっていうのを聞いたんですけど、支障の程は大丈夫でしょうか。

事務局) 問い合わせも1、2件きておりました。穴を開けていないものについては、十勝リサイクルプラザで選別をする中で処理をしております。

ますので、数的に1日出る量もそう多くはないので、問い合わせに対しては状況を見ながら対応させていただきます。それからあまり早く4月に入って周知をすると、今おっしゃったように間違う方が出てくるので、その辺に十分気を付けながら進めて行きたいと考えております。

会長) ありがとうございます。ただ勘違いする人も居るけど、特に支障が出ている程では無いということですね。分かりました。その他いかがでしょうか。

委員) 美加登のことなんですけど、前に視察に行ったときに、結構埋立がすごく進んでいるなと思ったんですけど、今時点で後何年くらいもつってという感じは分かりますでしょうか。

事務局) 池田にあります最終処分場は、23年から15年の計画で動いています。37年度まで使う予定でおりまして、実際に埋め立てられている量は計画よりも少ないという風に聞いております。

委員) それは、今現在減ってきているということですか。

事務局) はい。計画の数値がありまして、それ以上減ってきていますので、まだ余裕があるということです。

委員) 分かりました。

会長) 良い話で良かったですね。その他いかがでしょうか。

委員) 電池なんですけど、電池のリサイクルとかごみの処理っていうのは自治体によってばらつきがあって、たまたま釧路の電気屋さんに入った時に、電気屋さんの入り口にボタン電池の番号でこれはここ、というように全部箱に分けて色々な電池を区分するところがあって、急いでいたものですからその先どういう風に処理したりリサイクルしたり、どこかにまとめて送ったりするのか分からなかったんですけども、今小型家電とか、コードとかそういった細かいものとか結構分別するのに手間の掛かるようなものもコミセンの回収ボックスとかに入れるようになっていきますので、もし電池とかの使い道があるんだったら、そういうものも回収して、まあ手間の掛かる話なんですけども、結構お年寄りの方って未だに電池を入れて聞くラ

ジオを愛用されている方いて、月に結構電池消費するんですよね。だから量的にどれ位とか年間どれ位ってというのは全然見当付かないんですけども、もしそういうのも使い道があるんでしたら検討いただけないかなと思ひまして。

事務局) 乾電池とかボタン電池ですね。これが集められてからどういう風になっていくのかということですが、行政回収している部分では、有害ごみということで燃やさないごみに出してもらって、それを一旦中間処理施設のくりりんセンターで、構成市町村含めて、溜めてストックしておきます。一定量溜まったら、留辺蘂にイトムカという工場があるんですけども、乾電池に関しては全国的にそこに集約されてそこで水銀と、後は鉄ですね、側だとか、そういうところのリサイクルをしていくという流れになっています。で、販売店等に置いているボックスについては乾電池ではなくてボタン電池と充電式電池ですね、リチウム電池。これについては事業者さんの方で水銀が入っていないもの、従来の乾電池とは違うものということで、正確な名称はあれですけども、乾電池の方の事業組合のようなものがありまして、その流れのルートでリサイクルをしていくという流れです。もう一つありました、小型家電の中で一緒に回収していけばリサイクルもしやすいんじゃないかというお話しだと思ふんですけども、小型家電と乾電池と行先が違うということもありますし、取り扱っている業者もまた違うということもありますので、現状の中で一括のラインの中で集めてやっていくというのはなかなかちょっと難しいのかなという風に思っています。

会長) ありがとうございます。現状として積極的に帯広市でリサイクル目的で集めようという感じではないということですね。よろしいですか。

委員) 私いつも迷うんですが、家で使う電動工具のバッテリーは乾電池と一緒に出して良いんですか。あれは不燃ごみですか。

事務局) 充電式電池ということで、販売店やなんかで先ほど言いましたけど名称は別として電池協会みたいなところのリサイクルルートに乗せてもらうということで、市の収集ではなくて販売店のリサイクルボックスへということで、現在帯広市では市民の方にはお願いしているような状況です。

会長) よろしいですか。その他いかがでしょうか。

委員) 2ページの可燃ごみの事業系のごみなのですが、26年から28年までずっと上昇傾向にあるんですが、29年度の排出予想がすごく下がっているんですが、これは修正するっていうことはあるんですか。

事務局) 先ほどご説明いたしましたのは、これは一般廃棄物処理計画の年度別計画の中の一つでございます。目標を達成するにはですね、最低このラインを目標にしないと、本当はもう少し下がるということになるんですけども、こういう意味で載せさせていただいています。一般的にみると、無理なんじゃないかなという思いがあると思いますが、まずはこのラインを目指して取り組んでいかなければならないということで、排出予想量ということにさせていただいております。

会長) つまり、この29年度の排出予想量というのは何かの事実に基づいた数字ではなくて、一般廃棄物処理基本計画の目標として設定した数字だということですね。

事務局) 最終的なリサイクル率ですとか一人一日いくらってというのがこの29年度の排出予想よりももう少し下げていかないと達成出来ない数字なものですから。

会長) 先ほど説明もありましたように、景気が良くなると増える訳ですからなかなか難しいですよ。よろしいですか。その他いかがでしょうか。ございませんか。はい、どうぞ。

委員) アルミ缶とスチール缶って収集する時はごちゃ混ぜで収集しますよね。僕、以前別々にしないとリサイクルの時困るかなって別々で捨てていたんですけど、一緒になって捨てて、その後って、くりりんセンターとか行けなかったので分からないんですけど、何かまた分別するようなことをされているんでしょうか。

事務局) 袋の中に入っている缶を、リサイクルプラザで人の作業によって選り分けます。スチール缶とアルミ缶は見分けが付かないのでそのまま缶として選別をいたしまして、機械的に、多分磁気だと思うん

ですけど、スチールとアルミを分けて梱包するという事なので、一緒の袋に出していただいても大丈夫です。

会長) ありがとうございます。町内会の資源収集なんかの時は業者さんの都合に合わせて分けて出したり色々してますけれども、今のところ帯広市についてはリサイクルプラザで分けているから一緒に出していいということですね。その他いかがですか。よろしいでしょうか。特に無ければそれでは次の議題に進んで行きたいと思います。次に今度は議題の2で、一般廃棄物処理基本計画の実施状況と今後の取組みについて事務局から説明いただきたいと思います。よろしくお願いたします。

2. 一般廃棄物処理基本計画の実施状況と今後の取組みについて (事務局：岸浪課長補佐) 説明 (資料2)

会長) ありがとうございます。先ほどの、今年度の実施計画と重なる部分が多かったところかと思いますが、今の説明のあった内容につきまして皆さんの方から質問ですとかご意見ありましたらご発言ください。いかがでしょうか。

委員) 食品ロスの件なんですけれども、今さかんにマスコミでも言われています賞味期限、消費期限も関係がありますよね。本来の食品ロスっていうのはメーカーから出るのが非常に多いんですけど、一般家庭から出る食品ロスって本当にどれくらいあるのかなというのがちょっと気になります。その言葉自体は全体を捉えている言葉なものですから、帯広市で食品ロスって言われているものがどのくらいあるのかなと。実際にお若い方は味覚がちょっとしっかりしてらっしゃらないので、自分の舌で良いか悪いかの判断はなかなか出来ないから、書いてある消費・賞味という言葉に踊らされるということが非常にあるらしいんですけども。管轄が違うかもしれませんが、その辺の啓発活動というんでしょうか、そういったことも少しなさるとどうなんでしょうかと思うんですけどね。

会長) ありがとうございます。まずこの食品ロスという言葉は、工場だとか生産過程で出るロスも含むんですね。

委員) 含むことになりますよね。この言葉そのものが。

会長) 言葉の本来の意味ではそうですね。

委員) 例えばパン屋さんで沢山パンを作って残ったら、ロスになりますね。だけども本当に一般家庭でそれがどのくらいになるのかなと、ちょっと疑問ですね。

会長) ですからそもそもの問題意識として要は一般家庭でどのくらいこう無駄になっているのかということですね。それって何か統計だとかそういうのってあるんですかね。

委員) ごみの減量のとかも量ありましたよね、一般廃棄物処理実施計画の中で減らしてますよね、数量として。そことも関わり合ってくると思うんですよね。

事務局) 私たちの取組みはですね、家庭系の食品ロスももちろんですが食堂だとかそういうところの食品ロスについても、周知ですとかしていかなければならないということで考えてございます。それで、年に1回ですね、組成分析を毎年行っておりまして、サンプリングということで一定地域を定めてそこのごみの分析をして、大体生ごみは何kgだとか、燃やすごみの中に違うものが入っていないかどうかとか、毎年行っています。その中で、生ごみの量としては何%という捉え方は毎年しているんですけども、食品ロスについてはどの位あるよという分析は実は行っていません。というのはですね、なかなか、家庭の中だとかあるいは事業所の中のものありますし、開封されていないものが入っていれば、食品で開封されていないものの量というのは分かりそうなんです。それも食品ロスになると思うので。消費期限が切れたりですとか、あと要らなくなったから投げたものですとか。それについては分かる可能性はあるかと思いますが、ただ全体の量を分析するというノウハウですとか、多分どこかにお任せすると予算がかかるかと思います。今のところちょっとそこまではやれてはいないんですけども、生ごみが全体に何%あって、それがどの位減っていつているのかということをついて、食品ロスの部分も減っていつているのかなというあくまで推測なんですけど、今のところはそういう風な状態です。

委員) そうすると、この審議会の中で、29年度の取組みの中に食品ロスを減らす取組みの紹介というタイトルがどうかと思いますね。

事務局)　そうですね、実際にどのくらい減ったというのは多分掴めないと思うんですけども、生ごみの全体量が減ったということで少し推進しているのかということをつたいと考えていますが、周知の方法についても例えば賞味期限と消費期限の違いですとか、そういうことをお知らせしたりですとか。実は昨年イベントで配るチラシの中でそういったことをお知らせしたり現実にしてございますので、そんなことを少しずつ取り組んでいってですね、今のところはその取り組みによって生ごみがどれだけ減ったであろうということで進行状況とか取り組みの進み方というのを捉えているのが現状でございます。

会長)　　またしばらく経ったところで成果がどう上がってるかっていうのを見ないといけないですよ。

委員)　　だからこれがタイトルに挙がるということは、そういう成果を見ないといけなくなるから、このタイトルを挙げてこれをやるのはいかがなものかと。

事務局)　　仕事がかえって増えちゃうかもしれないですね。ただまあ、生ごみの中である程度が食品ロスなのは間違いない訳だから、そこが減れば生ごみ全体も減るだろうっていう考えそのものは妥当だと思うんですけども、実際に成果を問われた時に難しいかなと。またその賞味期限の問題も難しく、賞味期限切れても食べられるぞとは言えるけど食べろとは言えない訳ですよ。そこはなかなか難しいですよ。

委員)　　今一番問題になってるんですよ。メーカーの生産量も下げていっているということをやっている、スーパーに納める食品の引き上げも少し延ばそうとやっているらしいんですけどね。

会長)　　もったいないですから、少ないに越したことはないですよ。分かりました、よろしいですか。

委員)　　給食とかそういうものの食べ残しとか、そういうものは調べているんでしょうか。どれ位あるんでしょうか、帯広市で。

事務局)　　学校給食の関係だと思いますけど、私どもの方でちょっと数字としては押さえてないんですけども、学校給食としては戻って来た

ものですとかの集計はしているという風に聞いています。現状学校給食については戻って来たものと、野菜やなんかの剥いたくずですとか食べられない部分ですね、これらをリサイクル、飼料、動物の餌ということでリサイクルしているという風に聞いています。

会長) 給食関係のごみはセンター化されてるから産業廃棄物になるんですかね。

事務局) 事業系一般廃棄物ですね。

委員) レストランとか食堂とかの食べ残しも一般廃棄物ですか。

事務局) 食堂は同じように事業系一般廃棄物ということになりまして、こちらの方はほとんどは許可業者が回収をして、くりりんセンターで燃やすごみとして処分されているのが現状でございます。

事務局) 付け加えますけれども、大きいスーパーですとか、そういった部分については、リサイクルルートに乗っている部分も一部あるんですけれども、ただ個人の食堂ですとか小さいお店ですとかっていうと回収に行く側の仕事の関係もありますのでなかなかルートに乗ってこないというような状況です。

会長) 全体としてのロスが減らすってということになると、そういうことももっと考えなきゃいけないということですね。ここの担当かどうかは別として。それからさっきおっしゃった通りこの食品ロスっていうもの自体が結構大きな問題ですね。社会全体でロスが減らすような取り組みをしていかないとこれからやっていけないですね。

委員) 今のコンビニのことなんですけど、コンビニさんの販売戦略としては、ロスを出さないで売上が上がっていかないんですよ。消費者としたら、買い物に行って商品が並んでないっていったら、そのコンビニにはもう行かないんですよ。ということは、色々な店でやっぱり1万円から2万円の間でロスを毎日出していく。100件あったら、その金額が生ごみとして事業系のごみとしてか分からないんですけど、出ていくと。販売戦略としてはロスを出すという戦略なんですよ。それを減らせて言ったら売り上げが上がっていかないっていう、そういう悪循環になってくると思うんですが。

会長) 事業形態というか、商売のやり方自体がそうやってロスが出る仕組みになってるんですね。

委員) 消費者としたらやっぱり、行ったら買いたいものが無かったらその店に行かなくなるっていう。

会長) コンビニとかコンビニの売り方っていうのは、我々使う方は本当に便利なんですけど、その一方で考えると色々そういう問題が他のものでもありますよね。

委員) 友の会の代表で来ているんですけど、その団体では、スーパーで安くなっているものを買いましょうっていう運動をやっているんですね。安くなっているものとか古くなっているもの。やっぱりちょっと躊躇しちゃうときもあるんですけど、よく見たら確かに、表面だけちょっと腐っているだけで、使えるものが沢山あるので、そういうところを使いましょうって呼びかけをしたりしてるんですけど、私もなるべく、なかなか出来ない時もあるんですけど、やっぱりそういう自分たちの、消費者の考え方を変えていかないと、市の方からの呼びかけだけじゃなくて消費者、自分たちに結局返ってくるのかなっていうのは思いますね。

会長) 結局、食べ物をめぐる世の中の構造自体の問題ですからそんなに簡単ではないんですけど、少しでも減らすことが出来れば減らす方向で帯広市の方でも色々努力をしていただいて、減らせるものだけは減らせる範囲で減らしたいものだなと思いました。その他いかがでしょうか、関連することでも結構ですし、ございませんか。そうしましたらこの一般廃棄物処理基本計画の実施状況と今後の取組みについて、という部分はこれでひとまず終わりにしまして、今日は事務局から説明いただくのは以上で全部なんですけれども、その他ということで、今日話題になったこと以外のことでも何か皆さんの方から今後の清掃行政とかごみ減量・リサイクルなんかの関係でご意見ですとか、何かありましたらご発言いただきたいと思いますが、何かありますでしょうか。ございませんか。先ほども話ありましたようにこの今期の審議会は今日が最後になりますので、この機会に最後に一言っていうようなご意見もあればいただきたいと思うんですけども、いかがでしょうか。よろしいですか。そういうことでしたら、今日も色々なご意見、最後では食品ロスの問題についてなんかも色々ご意見出てきましたので、事務局の方、また帯広

市の方で我々の話を踏まえて取組みを進めていただけたらと思います。それで、繰り返しになりますけれども、皆さまには2年間、この廃棄物減量等推進審議会会員として審議をいただきましたけれども、今期は今回をもって終了ということになります。それで、最後ですので何かこの委員会に参加されてこういう感想を持ったとか、あるいはもう一言ご意見こういうのがあっていうのがあれば伺いたいと思うんですが、最後、順番に一言ずついただいてもいいですか。そしたら齋藤副会長からどうぞ。

副会長) 私が一番心配したのは各家庭にある木の処理の問題。しかし重点施策の中でも8番の中に、持って行くと処理してくれると。でもこれについてはもうちょっと検討して欲しいなっていう願いを持っています。車やトラックのある人は持って行けるんだけど、何も無い人は持って行かない、だから、ある程度近場のところに置いておいたら集めてもらえるようにすると良いかなという感じは思っていました。しかし、前向きにこういう取組みというか、そういう点では非常にお礼を申し上げなければならないと思っております。色々とお世話になりましたありがとうございます。

会長) ありがとうございます。この、木のごみの件はこの委員会で毎回齋藤副会長が色々意見言われたことがちゃんと反映された例ですので、他のことでもこの審議会で言ったことがちゃんと帯広市の方で配慮して実際に実行していただけたというのがすごく嬉しかったことがいくつかあったと思います。

委員) 参加させていただいて、自分で分からなかったこと知らなかったことが大変勉強になりました。後は、先ほどあったスプレー缶とガスのボンベを早く実施して欲しいなと思いました。

委員) ずっと参加させていただいて、今日の資料が一番明確に簡素化されて分かりやすかったなど。昔はとっても分厚い資料で見るのが大変だったんですけど、段々ね、おやりになる方も私たちに分かりやすくしていただいて、市の方も進んでいるなと思っております。

委員) 毎回参加して色々な方面から意見が出て、ごみ以外のことも色々勉強になりました。コンビニの件とか、最近街中なんか新しいコンビニが結構増えてますけど、そしたらその分無駄になる食品とかも増えてきちゃうのかなと思って。フランチャイズだから、裏に企業

が絡んでるんでちょっと民間の市民とかと絡んで対策するの難しいかもしれませんが、何か出来たらいいなと思いました。

委員) 自分は高校生なんで、詳しいことはよく分からないんですけど、ここで聞いたことっていうのを、両親だったり祖父母に話して、こういう風に今現状なってるんでこういう風にしてってみたいな話を色々出来たので、本当に狭い範囲かもしれないんですけど、このごみ、廃棄物のことに関しては色々話せたかなと思います。で、市内の小学校とかに、自分も小学校の時に環境学習だとかした記憶もあるんですけど、こういうことをやっぱりもっと進めて行くことで子どもから保護者の方に、今日こんなことがあったんだよっていう風に話してくれると、子どもと大人っていう多くの人がこのように考える機会が出来るのかなって思うので、是非この環境学習っていうのをもっとやっていただけたらいいなと思います。

委員) 私も何年間か委員をやらせていただけてるんですが、今期初めてくりりんセンターに見学に行けたことがすごく僕にはプラスになったと思うので、ありがとうございました。

委員) 高校生なので、環境のことに関わる機会があまり多くなくて、それでこういう委員会で色々聞いたことを同級生とかに話したりする機会もあって、そういう面で色々勉強になりました。本当にありがとうございました。

委員) 私も何年かやらせていただいて、去年ですか、くりりんセンターの見学、それからうめ～るセンター美加登の方の見学などをさせていただいて、大変貴重だったと思います。本当にありがとうございました。

委員) 家庭系の可燃ごみと不燃ごみが減っているということで、良かったなと思って聞いていました。今日ご紹介無かったんですけども、この間に古布の回収ですとか、家電の方のリサイクルでの回収とかがおそらく多分量が増えているんじゃないかなという風に思いますので、そういった取組みも、こういったごみの減量につながっているのかなという風に実感いたしましたので、引き続き、先ほどありました環境学習の方の取組みも含めて来年度頑張っていたきたいと思います。お世話になりました。

委員) 今日先ほど最後に話をいただいた三友中央町内会の話が素晴らしいなと思って、よくよく見ると68t近いごみとか資源を回収していて、207世帯しか無いのにこんなにも沢山の資源を回収していて、素晴らしいなという風に思いました。回収頻度を見ても、月1回やってらっしゃるといことなので、町内の方たちがきっと本当にしっかりと取り組んでおられるんだろうなあという風に思っていました。ただ、一方ですね、裏側に書いてあるデータを見ると、最初平成18年の9,900tの収集の量が7,900tにまで落ち込んでいると、ただ、団体の数は増えているような感じに見受けられるので、どうしても1カ月に1回で、うちもそうなんですけど、新聞紙なんか溜まっちゃうとどうしてもすぐ捨てたくなってしまう方なので、なかなか溜めておくということが無いんですけども、この三友中央町内会の取り組みっていうのは本当に素晴らしいなと、もっと広報とか広がればいいんじゃないかなという風に思いました。

会長) 私も町内会やってまして、廃品回収私担当なんですけれども、これやる方は大変なんですよ。でも、今ご意見いただいたように、こういう取り組みの例も広報して、また、ごみ集積場を造るとかこういうことについて例えば多少帯広市から支援がいただけるとか何かあればまたやりやすいところも出てくるかと思いました。ありがとうございます。

委員) 初めて参加させていただきました。私一応消費者協会から代表で来ているんですけども、協会の方でも一緒にリサイクルまつりとか、古布の回収とかもさせていただいてるんですね。私は協会の方に入るまでは、古布を回収しているということも知りませんでしたし、ここにも参加させていただいて沢山色んなことを勉強させていただいたので良かったなという風に思っています。去年はですね、たまたま私小学校の方にも関わっているんですけど、子ども達と一緒にごみ収集の分別とかを楽しくさせていただいたので、あれも本当良かったなと思って、色々なところにお勉強に行っていただけたらなという風に思っています。また、森の里小学校でも来ていただけたらなという風に思いました。本当に色々勉強させていただいたので、とても良かったです。ありがとうございます。

委員) 自分も短い期間でしたが参加させていただいてとても勉強になったことが多かったんですけども、自分事業を営んでいる

ので、事業系のごみって結構出すなと思ってて、やっぱり家庭ごみよりは事業系で投げた方が無責任とまでは言わないんですけど気楽にごみに出しちゃうということが多いなと改めて実感したんですよね。と思うと、ごみを出さないのが一番ですけども、コンビニの外のごみ箱とかも投げやすいですし、そういうの帯広市の条例で、外のごみ箱は無くすとかそういうところもやっていいのかなと思ったし、事業系のごみに関してもっと関税を掛けるとか、そういう風に、先ほど景気が良くなってきたかなという話もあったので、本当に良くなっているのであれば企業から金とってもいいかなと思ったりもしますし、それで文句言ってくる企業も多分居ないと思いますし、後は先ほど、A 委員や B 委員の話でありましたけれども、小さなコミュニティでの活動っていうのととても大事だと思うので、幼少期からの環境学習とかっていうのが多分一番ごみ減量に遠巻きなように見えて一番確実なごみ減量につながるんじゃないかなと思っていたので、2年前くらいまで幼稚園児対象に職業体験をさせるっていう、帯広市のごみ清掃課の方が来てくれてごみの分別の体験をやってくれてたんですけど、一番実は人気あったんですよ。子ども達も身近なところなのできっと、積極的に関わるところをもっともっとやっていただけたらなと思います。

委員) 私は一番印象に残っているのは工場を見学させてもらって、色々子どもと話したんですけども、子どもの方が色々先に知ってまして、まだまだもっと勉強しなくちゃいけないことがあるなと感じました。特に、廃プラとか分けますけども、ちょっと食品が付いてたり、洗われてなかっただけで、折角回収したのに使い物にならなくなったりしているということや、後、水切りの重要性、やっぱり重さでこれデータ取りますから、水切りをしているだけで大分ごみの量が減るという形なのでその辺の周知をもっとうまくなればいいなと思いながら、久しぶりに来るとまた自分も忘れてるなと思ったりして、自分自身にとっても良かったと思います。後、アルミ缶とかスチール缶の潰したものの綺麗さにすごくびっくりして、何かの建築資材にならないかなとか思いました。以上です。

委員) 私は帯広友の会という会に入ってます、会では大分前から環境のことには取り組んでいるんですけども、私個人としてはあまり、そんなに熱心かというと、それなりに取り組んでは居たんですけども、今回こういう会の代表として一応選ばれて来たんですけども、やっぱり詳しいこと色々知ることが出来て、自分自身の生活を

環境に優しい生活にしていかなければならないなど改めて感じました。前も言ったんですけれども、電動生ごみ処理機っていうのは良いのかなっていうのは今でもちょっと疑問があるんですけども、やっぱり一人一人がやっていくことが結局ごみ減量につながるんだなということで、色々なことに取り組んでその中で話し合ったりしているんですけども、その一つ一つをやっていくことがつながっていくんだなというのを感じました。今ちょっと水に付けられないということでやっていることをちょっと紹介したいと思ったんですけども、生ごみを三角コーナーとか、シンクに置かないようにしてるんですよね。そこに置くと水がどうしても散ってしまうので、私たちは新聞とか、ちょっと資源になるものであれなんですけれども、そういう紙で袋を作って、直接そこに野菜くずとかを入れるようにしてるとか、本当に小さいことなんですけれども、でもやっぱりこれからもそういうのを続けていきたいなっていうのを改めて思いました。色々勉強させてもらいました。ありがとうございました。

会長) どうもありがとうございました。私もこの審議会の会長を何期かさせていただいているんですが、今期は皆さん本当に色々ご意見、感想なんかも沢山言っただけで、私すごくやりやすく、出来ましたということで感謝をしております。また、これからもここで、市民学生代表で来られている皆さんはここで新しく知られたことを色々近所ですとかご家族にも知らせていただいて、ごみの減量に協力いただけたらなと思います。ご協力いただきましてありがとうございました。